

信濃町の埋蔵文化財

# 東裏遺跡

東裏団地地点・町道柴山線地点

発掘調査報告書

—縄文早期・沈線文系土器の遺跡—

長野県  
信濃町  
教育委員会

2004

長野県信濃町教育委員会

# 東裏遺跡

東裏団地地点・町道柴山線地点

発掘調査報告書

— 縄文早期・沈線文系土器の遺跡 —

2004

長野県信濃町教育委員会

# 目 次

目 次	II 東裏遺跡町道柴山線地点の発掘調査 ..... 8
例 言	1 概要 ..... 8
I 東裏遺跡東裏団地地点の発掘調査 ..... 1	2 遺跡の位置 ..... 8
1 概要 ..... 1	3 調査の概要 ..... 8
2 遺跡の位置 ..... 1	4 遺物の出土状況 ..... 8
3 調査の概要 ..... 1	5 出土遺物 ..... 8
4 遺物の出土状況・層位 ..... 3	1) 縄文土器など ..... 8
5 出土遺物 ..... 3	2) 石器 ..... 9
6 まとめ ..... 3	3) その他 ..... 9
1) 縄文土器 ..... 3	6 まとめ ..... 9
2) 石器 ..... 3	写真図版 ..... 15
3) その他 ..... 3	報告書抄録 ..... 15
6 まとめ ..... 3	

# 例 言

1. 本書は、平成5年度町道東裏団地線建設工事および平成11年度町道柴山線建設工事にかかる東裏遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、信濃町教育委員会が、平成5年9月20日から平成5年11月5日、ならびに平成11年4月23日から平成11年6月8日にかけて実施した。  
整理作業は、それぞれ平成5年、および平成11年からはじめた。  
報告書作成のための作業は、平成16年2月29日までにおこなった。
3. 本書は、調査によって確認された遺物とその出土状況を中心に、基礎資料を提示することに重点をおいた。
4. 本書の編集・執筆は、中村由克がおこなった。編集にあたっては、佐藤ユミ子、今井美枝子・長谷川悦子の援助をうけた。
5. 調査によってえられた諸資料は、野尻湖ナウマンゾウ博物館で保管している。  
出土資料の注記番号は、次のとおりである。

東裏遺跡 東裏団地地点	93HD
東裏遺跡 町道柴山線地点	99HU
6. 発掘調査・報告書作成にあたり、下記の諸氏にご指導・ご援助いただいた。記して謝意を表する次第である（敬称略）。

縄文土器：中沢道彦、小笠原永隆

# I 東裏遺跡東裏団地地点の発掘調査

## 1 概要

遺跡所在地 長野県上水内郡信濃町大字柏原字東裏  
調査主体 信濃町教育委員会  
調査面積 700m<sup>2</sup>  
調査期間 1993(平成5)年9月20日～11月5日  
調査目的 宅地造成地内の道路工事に伴う発掘調査

## 3 調査の概要

### 1) 調査体制

川沿いの畑地で住宅団地を造成し、その中央に町道東裏団地線を建設することになり、発掘調査をおこなった。

調査主体者 信濃町教育委員会 教育長 片山 幹威  
事務局次長 山崎 功一

係長 松木 武夫

文化財担当 渡辺 哲也

調査担当者 中村 由克

調査参加者 新井のぞみ、今井美枝子、木村キミ子、  
片山トヨ、小林ヨシエ、佐藤ユミ子、  
中村ヨネ子、中村正枝、中村光江、  
永原シズエ、東賀貢、福沢キサエ、  
渡辺稔、山下紀代

## 2 遺跡の位置

柏原の南部、伊勢見山の南麓を南西に流れる細谷沢と鳥居川の合流点付近に発達する小規模な段丘面に立地する。南側には信濃町役場方面から小さな沢が開析しており、さらに南隣のやせ尾模状の段丘先端部には東裏城跡が位置している。

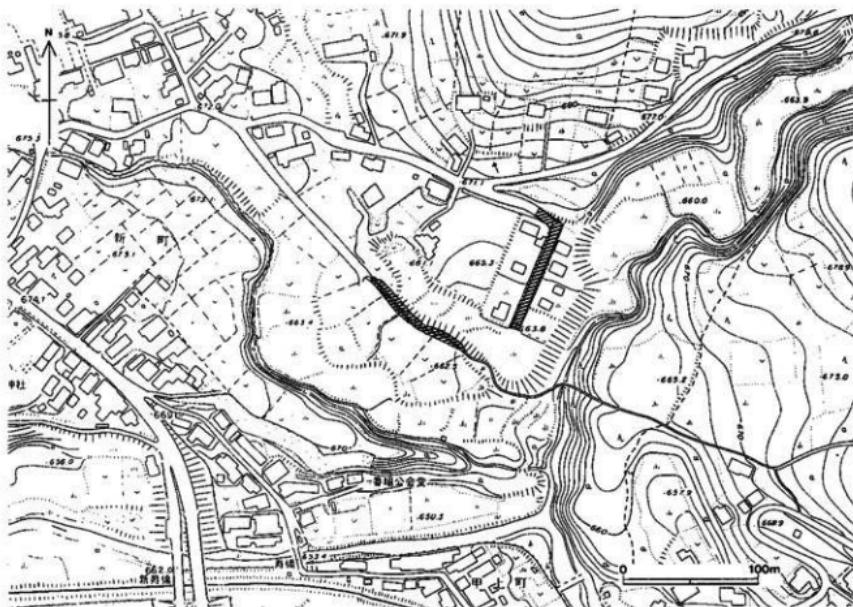
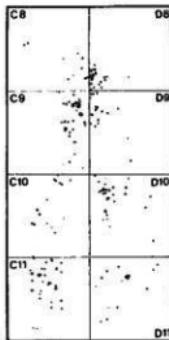
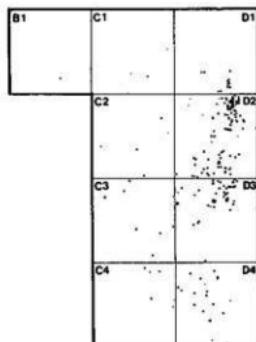


図1 東裏遺跡の調査位置 左：町道柴山線地点、右：東裏団地地点



A 石器  
 ● 土器  
 ▲ 棘  
 □ 鉄・その他

図2 東裏団地地点の出土遺物の分布

	A	B	C	D	E
1		4	13		
2		5	100		
3		8	46		
4		6	21		
5		4	44		
6		8	5		
7		19	3		
8		11	26		
9		51	19		
10		16	33		
11		32	18		
12		5	3		
13		5	2		
14		1	1		
15		0			
16		0			10m

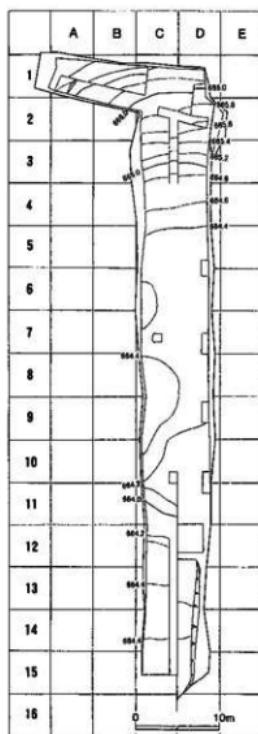


図3 東裏団地地点の調査区

表1 東裏遺跡東裏団地地点の出土遺物点数

(単位:点)

種類	石器 (剥片石器)	剥片・石核	礫石器	縄文土器	江戸時代末 乗付	明治時代初 乗付	近・現代 陶磁器	棘・その他	総計
点数	15	19	9	391	3	6	9	58	510

## 2) 調査経過

- 9月20日 入口部分の試掘。柏原黒色火山灰層下部より縄文土器が出土し、本格的な調査に入ることを決定。調査地を拡大。上ノ原遺跡(第2次)と並行して調査。
- 10月12日 上ノ原遺跡が終了し、東裏団地を増員。調査地の拡大。
- 10月21日 七ツ栗遺跡を着手。並行して調査開始。
- 10月27日 発掘作業がほぼ終了。平面図、記録、測量。
- 11月5日 現場の撤収、七ツ栗遺跡に引越す。

## 4 遺物の出土状況・層位

### 1) 出土状況

北北東-南南西方向の道路の2か所で遺物集中区が確認された。遺構は一切伴わず、多くの遺物が散在していた。D2・3グリッドでは、縄文土器115点、石鎚、特殊磨石、石皿などが出土した。また、C9・D8グリッドでは、縄文土器72点が出土したが、石器は少なかった。東裏団地の発掘では、総計510点の出土品がえられた。純文土器391点、石器43点、陶磁器18点、その他(礫など)58点であった。

### 2) 層位

上位より表土は35cmの黒色火山灰質土壤(耕作土)、49cmの柏原黒色火山灰層、この下位にシルト層を主体とする上部野尻湖層相当の水成層が堆積。シルト層のトップから13cmの付近に厚さ6cmのガラス質火山灰のレンズがあり、又カⅠ火山灰層(AT)に対比される。これより下位には粘土層が分布する。

純文時代の遺物は、黒色火山灰層の下部に集中して出土した。

## 5 出土遺物

### 1) 縄文土器

出土土器のはほとんどは縄文時代早期の沈線文系土器である。沈線文と貝殻腹縁文を施した土器と無文のものが大半で、ほぼ1時期に属す一括資料と思われる。概して薄手で、よい焼き上がりの土器であるが、小片に割れ、表面は水の作用による著しい風化を受け、文様が剥落し

て確認できないものも多い。

1は口縁部が外側に開いたあと、キャリバー状にすばまる器形である。口縁にそって太い沈線で上下に区画され、その中にクラシック状のモチーフが沈線でえがかれている。区画内には貝殻腹縁文が斜位に充填されている。胴下部は無文である。器形、施文、文様ともに東裏団地の基本的な特徴を有するが、文様には以下の要素のものもみられる。1以外のものは小破片が多く、全体の文様構成等は不明な点が多い。

3~6、23、24は平行沈線間に波状沈線文をえがくものである。

8、14、16は曲線文をえがくものである。

9、10、15、23~26は横位、縦位、斜位の沈線文で幾何学的な区画をおこない、内部に貝殻腹縁文を充填するものである。

### 2) 石器

石器は34点出土した。石鎚3点、石鎚未成品5点、スクレイパー5点、両面加工のスクレイパー1点、クサビ形石器2点、特殊磨石3点、磨石2点、石皿4点などがある。石鎚は大形のものが含まれる。黒曜石製のものは、長さ2.8cm、幅広で抉りが浅く、素材剥片の剥離面を大きく残存するものである。チャート製のものは、長さ3.0cm、基部の抉りが深い方形をした鉋形鎚である。ともに、早期に特徴的な形態である。

### 3) その他

江戸時代末の染付3点、明治時代初期の型紙模絵の染付6点のほか、近現代の陶磁器9点、鉄製品などが出土している。

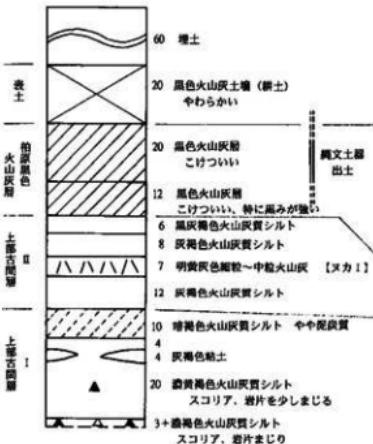
## 6まとめ

この地点は、町道針の木線より1段低い段丘面で桑畑になっていた。旧地主の中村寛氏が石鎚を13点採集し、保管されていたことから遺跡であることが判明した(中村、1988)。

住宅団地の造成で、この畠地全域が埋め立てられることになり、段丘中央部に町道が計画され、その部分のみ発掘調査された。この結果、約7000年前の縄文時代早期の中葉、沈線文土器期の土器集中区2か所が確認された。

東裏遺跡の東裏団地地点の出土土器は、信濃町の沈線文系土器としては初期のものがまとまっており、縄文土器の変遷を知るうえで大変重要な成果である。調査当初は、信濃町で沈線文系土器の存在が知られてなく、長らくこの土器の位置づけが不明であったが、大道下遺跡、上山桑A遺跡などの発掘で後続と思われる沈線文系の土器が出土し、また長野県内でもこの時期に対する認識が深まったため、東裏団地地点出土の縄文土器の位置づけがようやく定まるところとなった。

99 町道柴山線地点



93 東裏団地地点



図4 東裏遺跡の地層

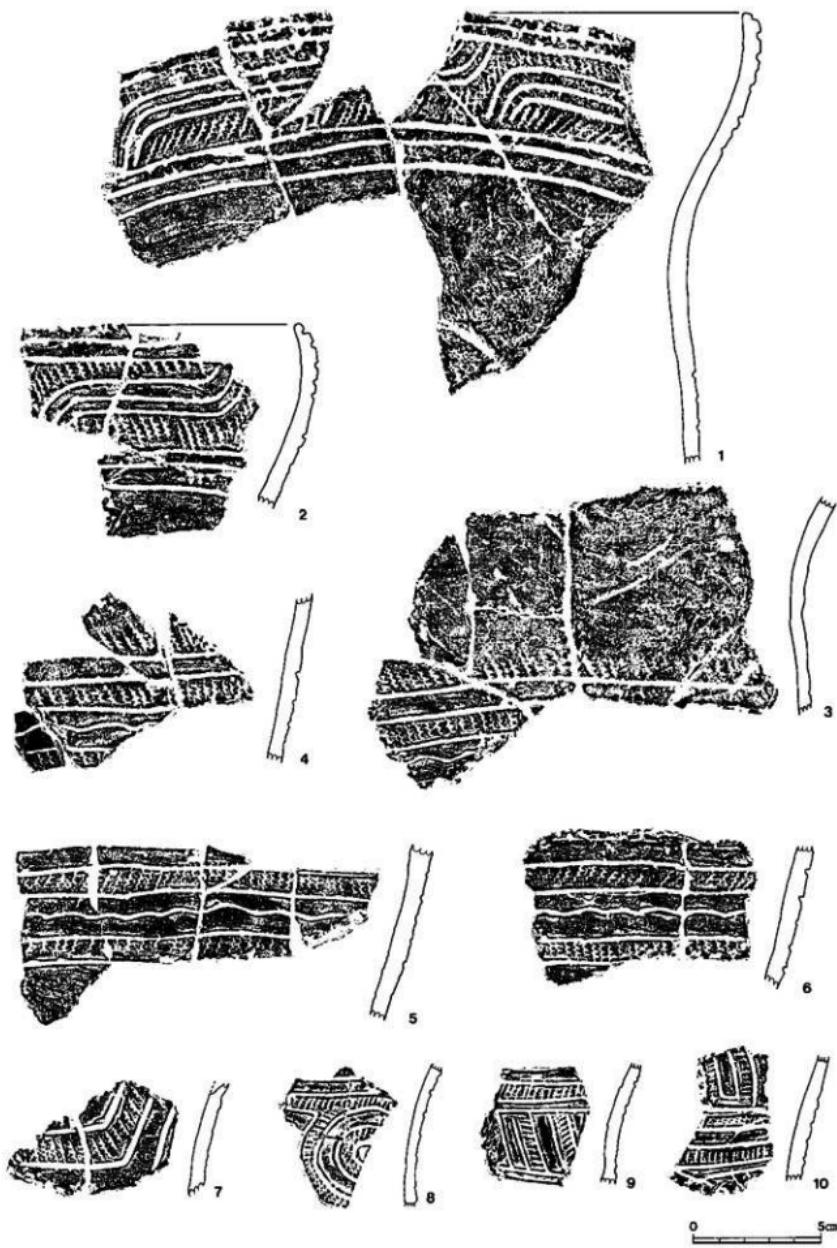


図5 東裏遺跡東裏团地地点出土の縄文土器1 早期沈線文系土器

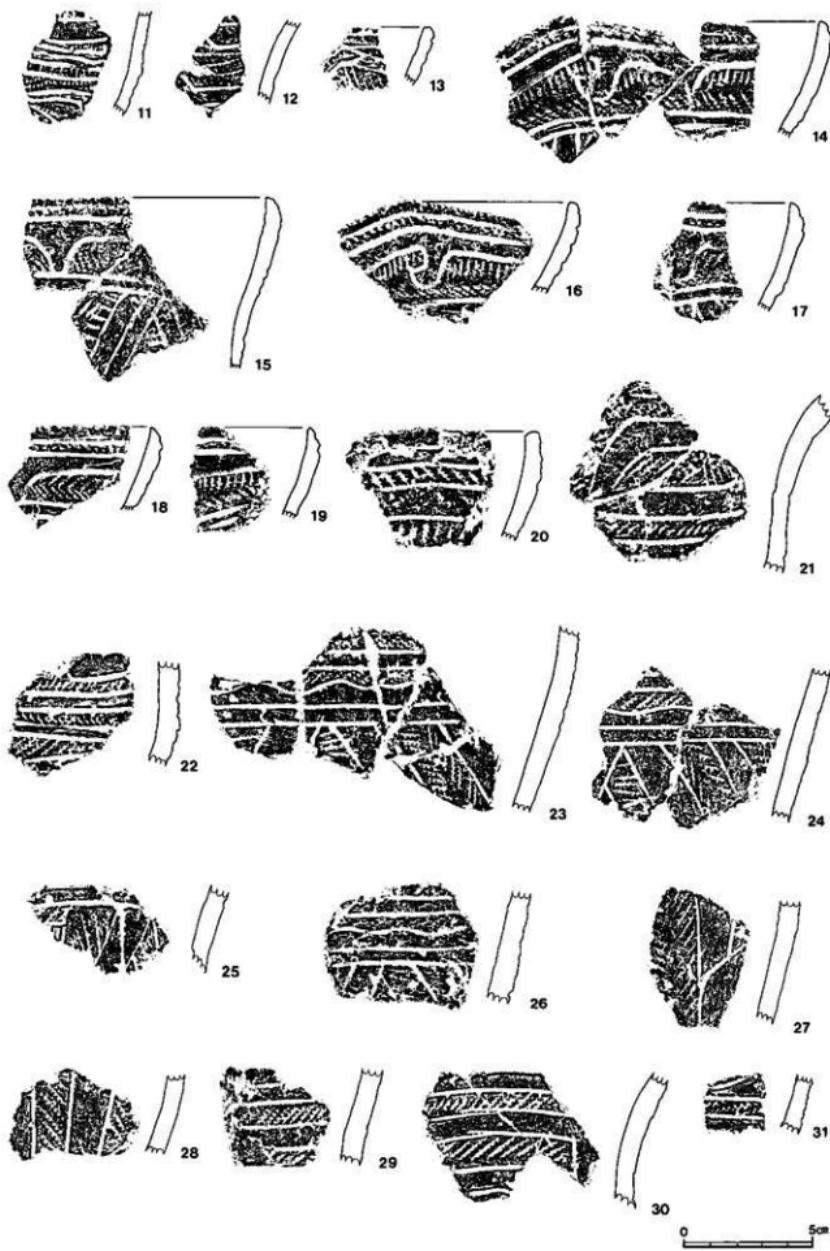


図6 東裏遺跡東裏塚地地点出土の縄文土器2 早期沈線文系土器

表2 東裏遺跡東裏団地地点出土の純文土器一覧

No	時期	文様・文様要素	胎 土		繊維混入量	遺 物 番 号	備 考
			量	砂粒の種類			
1	早期後葉	沈線文I	沈線文、貝殻模縞文	有	qt. ch. ho. 灰	ごく微量	93HD-D5-2, 3, 4, 5, 6, 13, 21
2	*	*	*	少	白, qt. ho. ch	*	93HD-D4-9, 10, 93HD-D5-1
3	*	*	*	有	ch. qt. ho. 白	*	93HD-D5-6他
4	*	*	*	*	qt. 白, ho. 灰	*	93HD-D5-15, 38
5	*	*	*	*	qt. ch. 灰. ho	*	93HD-D5-8, 11, 34, 35, 44
6	*	*	*	*	*	*	93HD-D5-27
7	*	*	*	少	ho. 白, qt. ch	93HD-D2-57, 75	
8	*	*	*	*	白, 灰, qt. ho	93HD-C11-26	
9	*	*	*	*	灰, qt. ho	少	93HD-C11-31
10	*	*	*	*	灰, qt. 白, ho	*	93HD-C11-28, 29
11	*	*	*	*	qt. ho. 白	ごく微量	93HD-C13-4
12	*	*	*	*	qt. ho. 灰	*	93HD-C13-1
13	*	*	*	*	灰, qt. ho	*	93HD-C12-3
14	*	*	*	有	qt>白	93HD-D2-28, 29, 51	高温型石英
15	*	*	*	*	qt	ごく微量	93HD-D2-33, 94
16	*	*	*	少~有	qt>ho. 白	*	93HD-D2-35
17	*	*	*	少	qt>白	*	93HD-D2-40
18	*	*	*	*	*	少	93HD-D2-27
19	*	*	*	*	*	ごく微量	93HD-D2-26
20	*	*	*	有	白, 灰, qt, bt	*	93HD-C11-20
21	*	*	*	*	灰>ho. qt	少	93HD-D3-35, 36, 45
22	*	*	*	*	ch. 灰, ho. qt	少	93HD-D3-17
23	*	*	*	*	ch. 灰, qt. ho	少	93HD-D2-6, 7, 45, 91
24	*	*	*	*	ch. 白, qt. ho	少	93HD-D3-12, 41
25	*	*	*	少	白, ch. qt. ho	ごく微量	93HD-D3-40
26	*	*	*	*	ch. qt. ho	少	93HD-D3-19
27	*	*	*	*	ch. 白, qt	少	93HD-D3-13
28	*	*	*	*	ch. 白, qt. ho	*	93HD-D2-10
29	*	*	*	少~有	白, 灰, ch. qt	少	93HD-D1-3
30	*	*	*	少	ch. 白, 灰, qt	少	93HD-D1-7, 11
31	*	*	*	*	白, qt. ho	少	93HD-C12-5

(注) 砂粒の記号

qt 石英、ho 角閃石、au 煙石類、hy シソ輝石、bt 黒雲母、mg 磁鐵鉄、fl 長石類、白 白色岩片、赤 赤色岩片、灰 灰色岩片、茶 茶色岩片、黒 黑色岩片、ch チャート、高 高温型石英を含む、砂 水磨された砂の粒子を含む

## II 東裏遺跡町道柴山線地点の発掘調査

### 1 概要

遺跡所在地 長野県上水内郡信濃町大字柏原字東裏  
調査主体 信濃町教育委員会  
調査面積 450m<sup>2</sup>  
調査期間 1999（平成11）年4月23日～6月8日  
調査目的 町道柴山線の建設工事に伴う発掘調査

5月18日～遺物測量、図化、取り上げ。

5月21日 試掘開始。

5月31日 一部拡張。

6月4日 発掘作業終了。

6月8日 測量、図化完了。発掘調査終了。引渡し。

### 2 遺跡の位置

柏原の南部、伊勢見山の南麓を南西に流れる細谷沢と鳥居川の合流点付近に発達する小規模な段丘面に立地する。南側には信濃町役場方面から小さな沢が開析しており、さらに南隣のやせ尾根状の段丘先端部には東裏城跡が位置している。

### 3 調査の概要

川沿いの畠地で、古間上島田に通じる町道柴山線を建設することになり、発掘調査をおこなった。

調査主体者 信濃町教育委員会 教育長 小林 豊雄  
事務局 総務教育課長 北村 敦博  
係長 北村 荘一  
係 池田 昭博

調査担当者 中村 由克

調査参加者 青柳 成子、麻田 純子、荻原 敬藏、  
落合 春人、金子 房江、北村フクコ、  
木村キミ子、駒村 幸男、小林 栄子、  
小林 正義、佐藤 道子、佐藤 儀信、  
浜沢ユキ子、高橋 是清、東 貢、  
深沢 政雄、藤田 桂子、松木由美子、  
油井 京子

#### 調査経過

4月21日 工事地域の表土剥ぎ開始。  
4月23日 発掘調査開始。  
5月10日 測量、グリッド設定。  
5月13日 杉久保遺跡より作業員増員。発掘地の拡張。  
5月17日 東裏遺跡個人住宅の発掘へ作業員一部移動。

### 4 遺物の出土状況・層位

#### 1) 出土状況

発掘地の西側と東側に遺物の集中区が確認された。遺構はなく、遺物は散布の状態で出土した。

東部では、20K区のA1～D3グリッドに、遺物が多いがやや散在的である。これに対して西部では、18I区F1グリッド、I3グリッド、18J区C4・5グリッドなどに遺物の集中地点が認められる。

#### 2) 層位

約60cmの埋土（客土）の下、表土（耕土）20cm、黒色火山灰層32cm、7cmのヌカⅠ火山灰層（A T）をはさむ厚さ33cmの火山灰質シルト層からなる上部野尻湖層Ⅱ相当層、その下位に41cm+の上部野尻湖層Ⅰ相当層が調査地域内ではみられる。

縄文時代早期の遺物は、上下に2分される柏原黒色火山灰層の境界付近に多く出土した。

### 5 出土遺物

#### 1) 縄文土器など

縄文時代早期の沈線文系土器がまとまって出土し、ほかに、後期のものがわずかにみられる。

沈線文系土器は、概して薄手のものが多い。細めの沈線文を施された土器と条線文が施された土器がある。沈線文のものは、平行しない沈線で扇形の模様をえがくもの（1～4）、平行する沈線で横位、縱位に区画し、その間に斜位の沈線をひくもの（5～9）、口縁に爪形の刺突列をつけ、その下に斜位の沈線を引くもの（10～14）がある。条線文を施すものには、縦位区画をおこない、横位、斜位に条線をひき、空白部に櫛齒状工具で刺突を充

填するもの(15~21)、棒状工具による刺突が施されるもの(22~29)、条線文のみのもの(30~40)などがある。

41は、無文土器である。胎土に纖維を多く含む。42は、単節RL-LRの原体を交互に回転した羽状縄文土器である。底部付近には、条痕が施されていて、下底に穴が穿たれている。胎土には、纖維を多く含む。とともに、縄文時代早中期の条痕文系土器と思われる。

43は、縄文時代後期の磨消縄文土器である。

44は、弥生時代の土器である。

## 2) 石器

石器は70点出土した。石鏃4点(黒曜石)、石匙1点(無斑晶質安山岩)、スクレイバー2点(黒曜石、無斑晶質安山岩)、剥片39点、石核2点(シルト岩、無斑晶質安山岩)、特殊磨石4点、凹石3点、磨石6点、石皿状2点、敲石の可能性のある小円錐7点などである。

## 3) その他

江戸時代後期の染付1点、近現代の陶磁器14点などがある。

## 6 まとめ

柴山線地点は、東裏団地地点と開析され始めた狭い低地をはさんで隣接した位置にある。出土遺物も同様に縄文時代早期中葉の沈線文系土器が中心である。柴山線地点の方は、沈線文でもやや後出のものである。また、縄文後期、弥生時代など、その後の時期の遺物もわずかながら出土している。

柴山線地点、東裏団地地点ともに沈線文系土器がまとまってえられており、上山桑A遺跡の出土品をあわせて見ると、当地域の縄文時代中葉の土器変遷の全体像が把握できるようになった。

表3 東裏遺跡 司道柴山線地点の出土遺物点数

種類	石器 (剥片石器)	剥片・石核	礫石器	縄文土器	弥生土器	古代土器 (土師器)	江戸時代 後期染付	近世～近代 ふいご羽口	近現代 陶磁器	磚・ その他	合計
点数	7	41	22	883	5	8	1	3	17	85	1,072

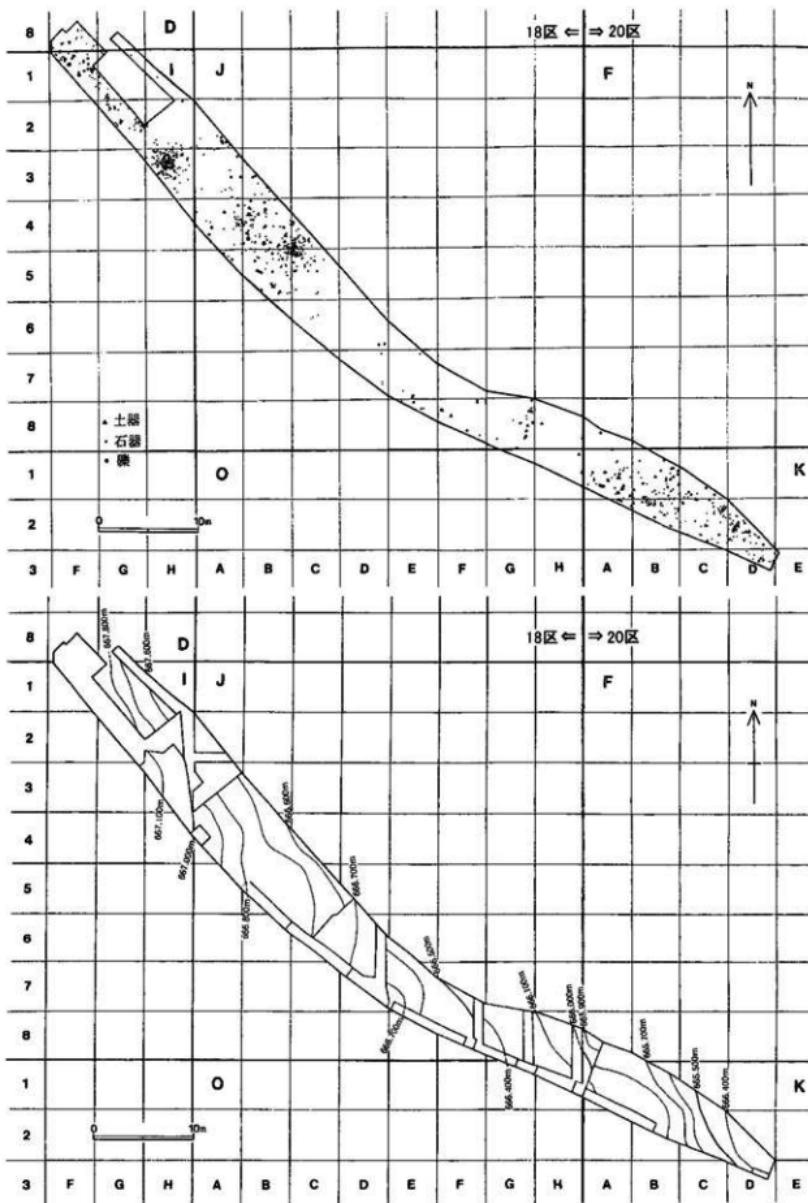
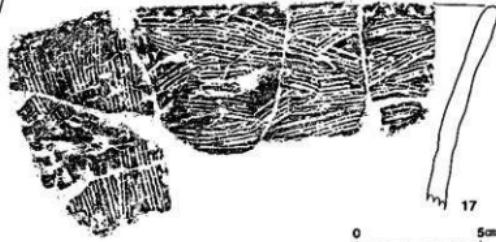
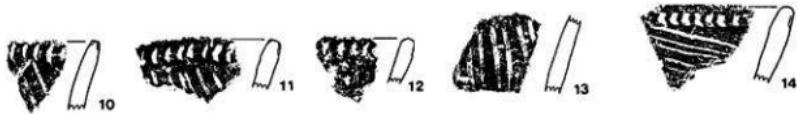
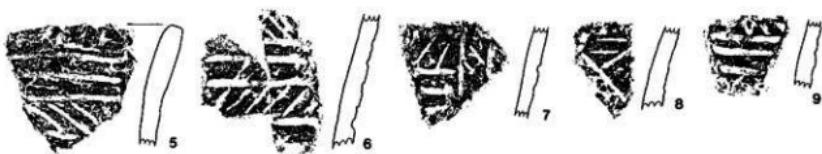
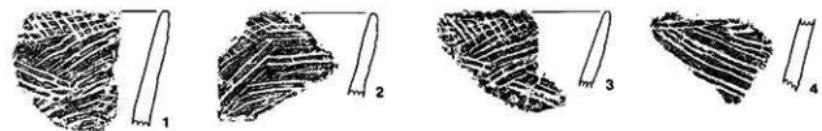


図7 東裏遺跡町道柴山線地点の出土遺物の分布（上）と調査区（下）



0 5cm

図8 東裏遺跡可道柴山線地点出土の縄文土器1 早期・沈線文系土器

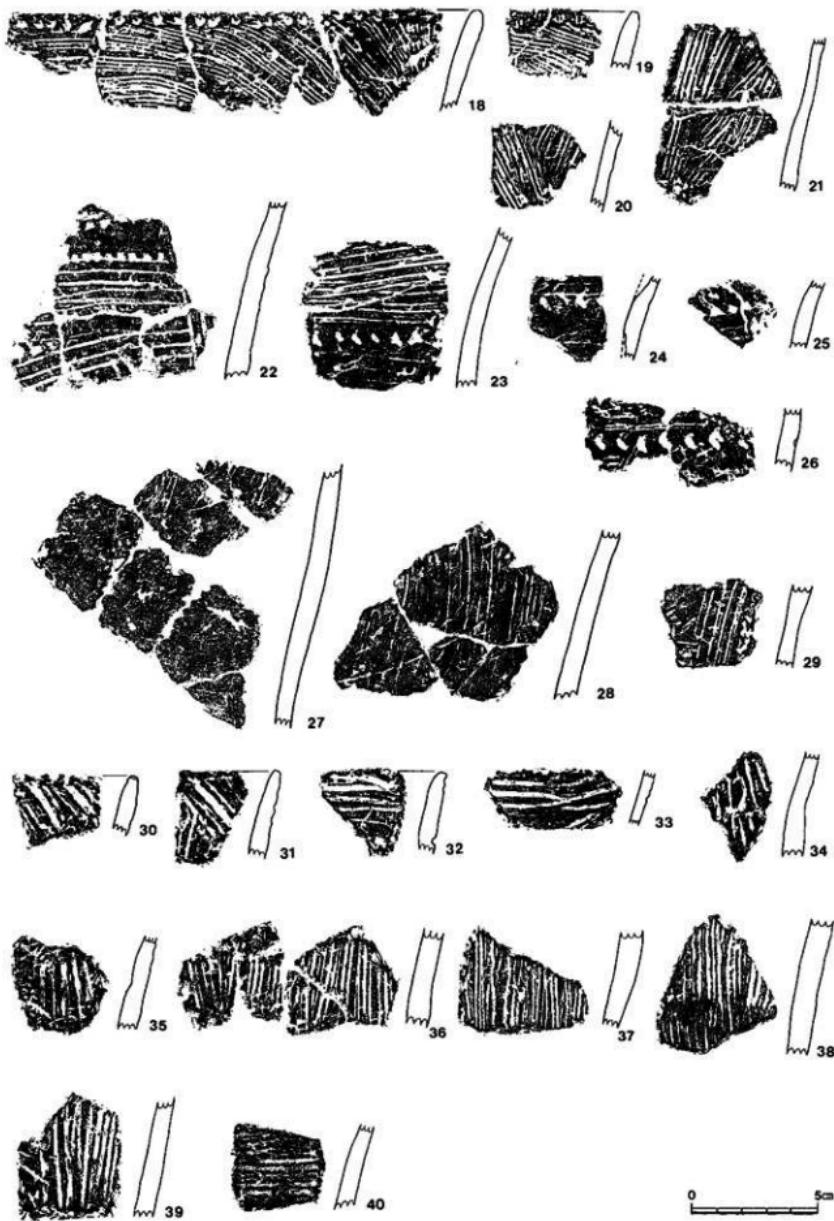
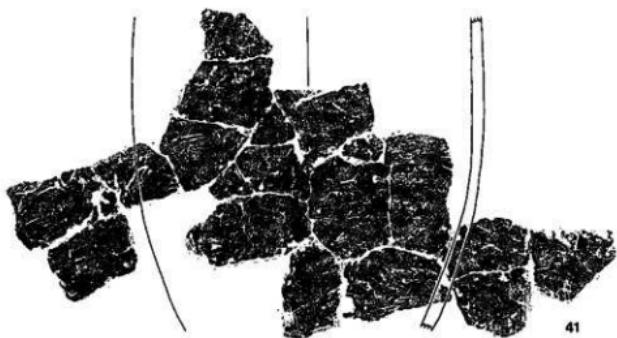
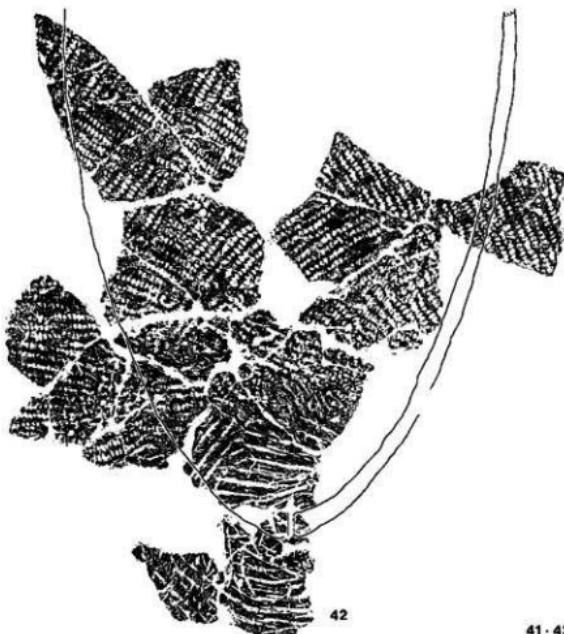


図9 東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文土器2 早期・沈線文系土器



41



42

41・42 0 5cm



43

0 5cm



44

図10 東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文土器3 早期・後期・弥生土器

表4 東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文土器一覧

No	時期	文様・文様要素	胎 土		焼締混入量	遺物番号	備考		
			量	砂粒の種類					
1	早期後業	沈縄文II	沈縄文	少~有	gt、白、fl、ho	有	99HU・20KB2-45		
2	*	*	*	有	*	*	99HU・20KB2-46	高温型石英	
3	*	*	*	少~有	*	*	99HU・20KB2-47		
4	*	*	*	やや多	*	*	99HU・20KB2-9		
5	*	沈縄文 その他の文	沈縄文	有~ やや多	白、gt、mg	やや多	99HU・18JC5-37	高温型石英	
6	*	*	*	*	白、gt>ho	*	99HU・18JC5-38、99HU・J-D5-1		
7	*	*	*	やや多	白、gt	多	99HU・18JB5-45		
8	*	*	*	*	白、gt、ho	やや多	99HU・18JC5-18		
9	*	*	沈縄文、刺突文	有~ やや多	白、gt、mg	多	99HU・18JB4-85		
10	*	*	刺突文、沈縄文	*	*	有	99HU・20KC2-14		
11	*	*	*	やや多	白、gt、ho	*	99HU・20KC2-8		
12	*	*	*	*	白、gt、ho、Mg	*	99HU・20KD2-66		
13	*	*	*	*	白、gt、ho	*	99HU・20KC2-9		
14	*	*	*	*	*	*	99HU・20KC1-4		
15	*	沈縄文II	条縞、刺突文	少	*	有~やや多	99HU・18IH3-6、97、108、112、133、 186、200地		
16	*	*	*	*	白、gt、ho、bt	やや多	99HU・18IH3-45、62、65、87、93、121、 150、155地		
17	*	*	*	*	白、gt、mg、ho	*	99HU・18IH3-34、59、75、184、202、 205		
18	*	*	*	*	白、gt、ho	有~やや多	99HU・18IH3-70、135、162、189、194		
19	*	*	*	*	白、mg、ho、fl	*	99HU・18IC2-8		
20	*	*	*	*	白、gt、ho、mg	有	99HU・18IH3-12		
21	*	*	*	*	gt、白	有~やや多	99HU・18IH3-123		
22	*	*	沈縄文、刺突文	有~ やや多	白、gt、ho、mg	*	99HU・20KD2-32、38、40、49	高温型石英	
23	*	*	*	*	ch、白	砂	多	99HU・18JC4-23、46	
24	*	*	*	有	*	有~やや多	99HU・18JC4-44		
25	*	*	*	有~ やや多	gt、白、ho	*	99HU・20KD2-6		
26	*	*	*	*	ch、gt、mg	砂	やや多	99HU・18JC4-26、28	
27	*	*	*	*	ch、gt、白	砂	有~やや多	99HU・18JB4-76、102、99HU・18JC4-17、 45、99HU・18JC5-1、56	
28	*	*	*	有	ch、白	砂	*	99HU・18JC4-29、31	
29	*	*	*	*	*	*	99HU・18JC5-4		
30	*	*	条縞、刺突文	少	白、gt、ho	有	99HU・18IP1-8	高温型石英	
31	*	*	*	*	*	*	99HU・18DF8-23		
32	*	*	*	有	gt、白、ho	*	99HU・20KD2-8	高温型石英	
33	*	*	条縞	少~有	白、灰、ho	有~やや多	99HU・18JB4-58		
34	*	*	条縞、刺突文	有~ やや多	gt、白、ho	*	99HU・18JC5-35	高温型石英	
35	*	*	条縞	少	白、ho、mg	やや多	99HU・18IF1-22		
36	*	*	*	有	ch、白	砂	有~やや多	99HU・18JC4-2、99HU・18JC6-2、3	
37	*	*	*	少~有	ch、gt、白、ho	砂	少	99HU・18IC2-17	
38	*	*	*	有	ch、白、gt、ho	砂	*	99HU・18IF1-20	
39	*	*	*	やや多	白、gt、ho	有	99HU・20KD2-36	高温型石英	
40	*	*	*	有	*	*	99HU・18IH3-127		
41	*	条痕文	無文	きわめて少	*	やや多	99HU・18IH3-14、17、63、136、142、 144、151、153、157、163、176、177、180、 181、182、196、206		
42	*	*	羽状縞文、 条痕文	少	ch、gt	砂	多	99HU・20KD2-9、12、13、14、15、16、 17、18、19、20、21、23、29、53、54、55、 56、57、58、59、60、62、63、65、67、68	
43	後期	磨消縞文		やや多	白、gt、bt、fl		99HU・18IF1-5、6、7		
44	弥生			少	灰、白、黑、	砂	99HU・18DF8-11		

(注) 砂粒記号は、表2(P7)と同じ



1 東表遺跡東裏團地地点の発掘調査 南方をのぞむ



2 遺物集中区が2か所に検出された



3 繩文時代の遺物集中区 D2区



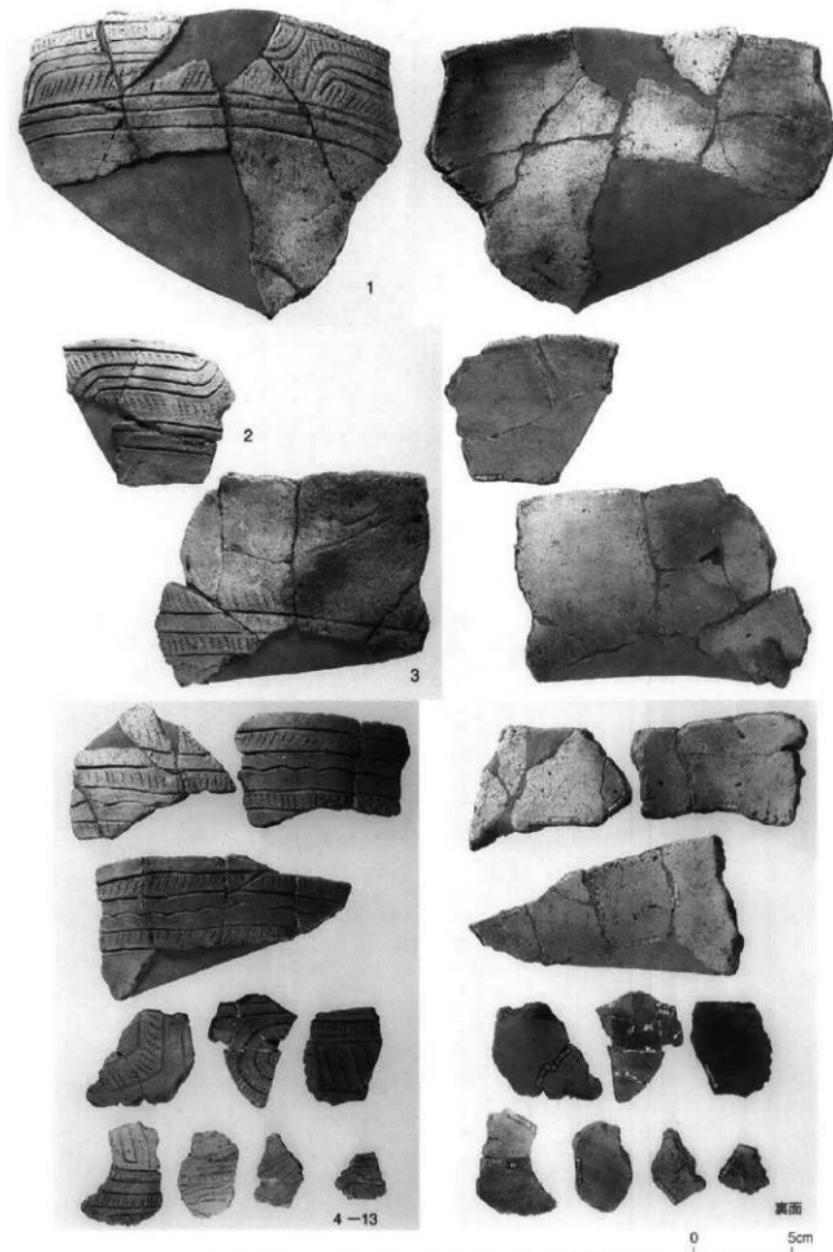
4 繩文時代早期の沈線文土器の出土状況



5 沈線文土器



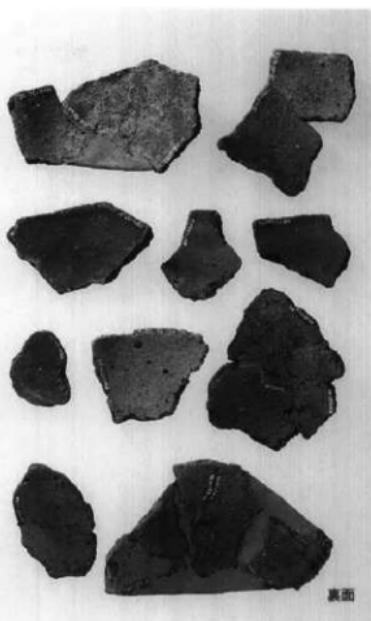
6 沈線文土器



東裏遺跡東裏團地地点出土の縄文土器 1 早期・沈線文系土器



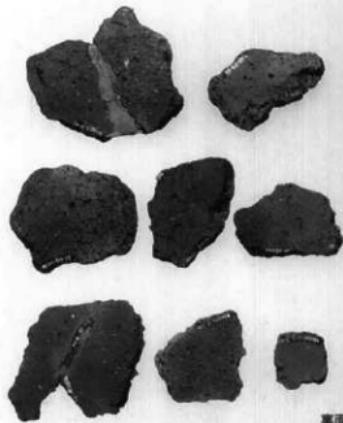
14-23



裏面



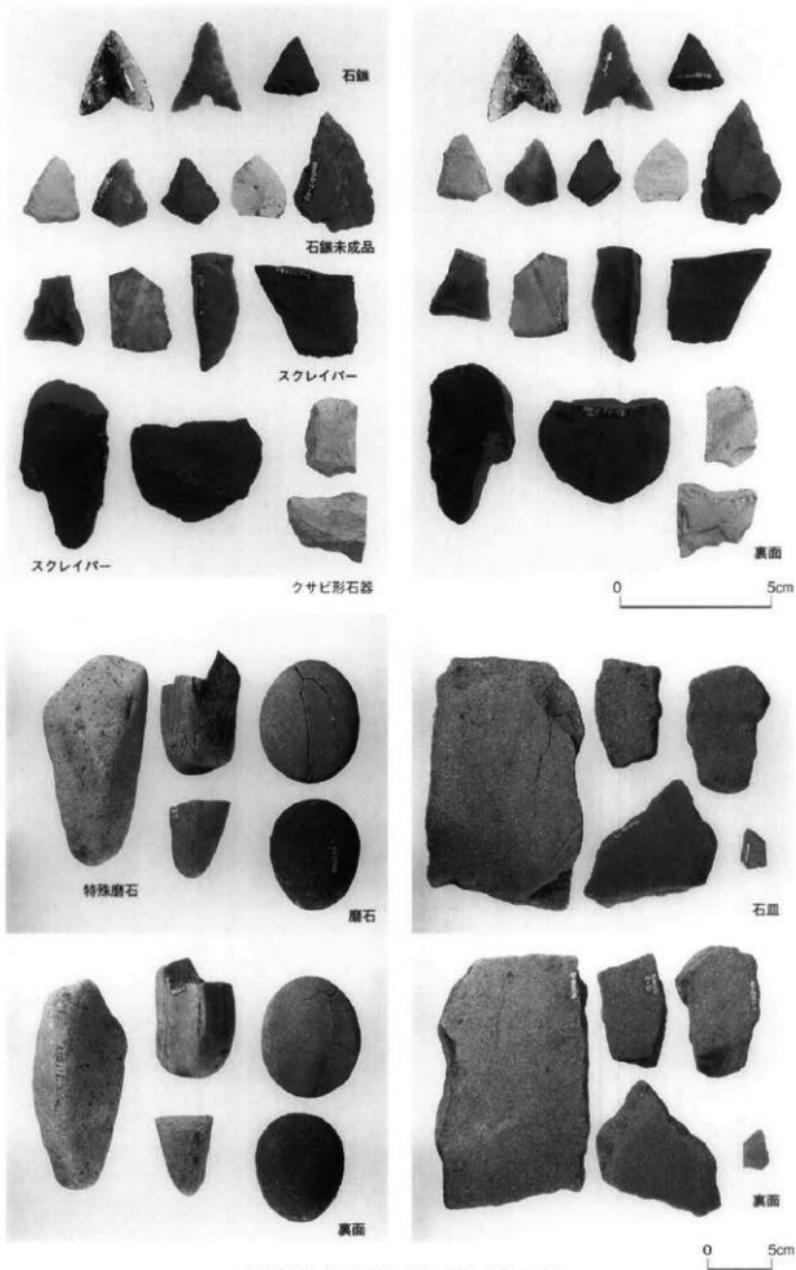
14-31



裏面

0 5cm

東裏遺跡東裏团地地点出土の縄文土器 2 早期・沈線文系土器



東裏遺跡東裏團地地点出土の縄文時代の石器



1 東裏遺跡町道柴山線地点の発掘風景 役場側（北西）をのぞむ



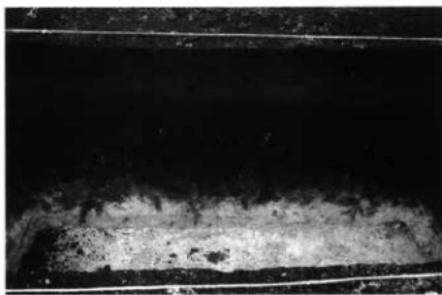
2 町道柴山線地点 細谷沢（南東）をのぞむ



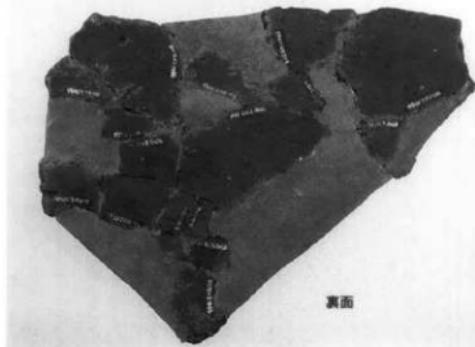
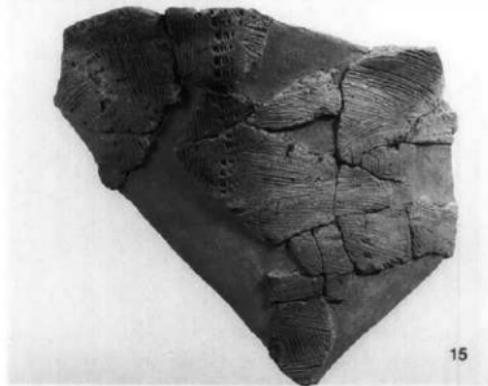
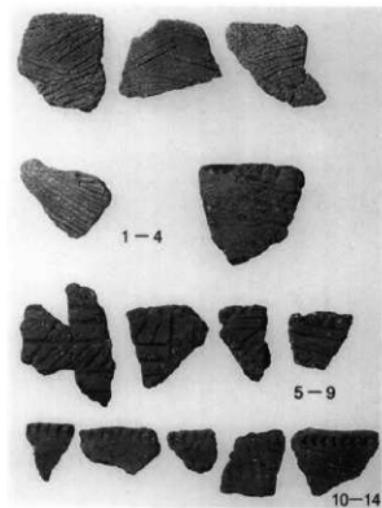
3 町道柴山線地点 東部（20K区）の遺物出土状況



4 町道柴山線地点 西部（18I・J区）の遺物出土状況



5 町道柴山線地点の地層



0 5cm

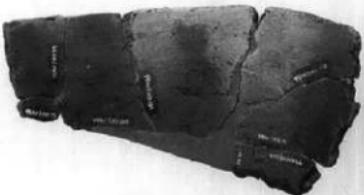
東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文土器 1 早期・沈線文系土器



16



17



裏面



18



19-21



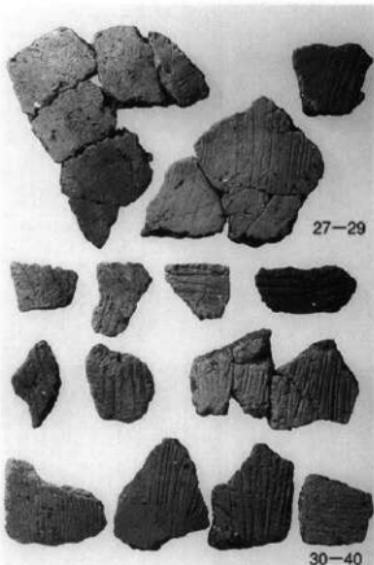
22-26



裏面

0 5cm

東表遺跡町道柴山線地点出土の縄文土器 2 早期・沈線文系土器



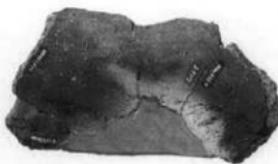
裏面



41



43



44

0 5cm

東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文土器 3 早期・沈線文系土器 (27-40)、その他

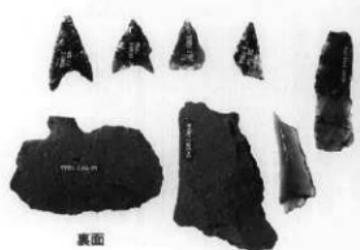
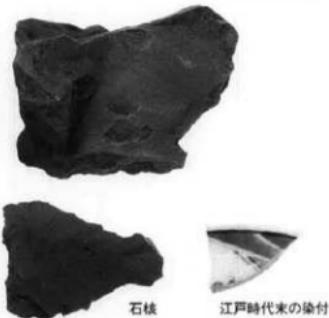


東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文土器 4

0 5cm

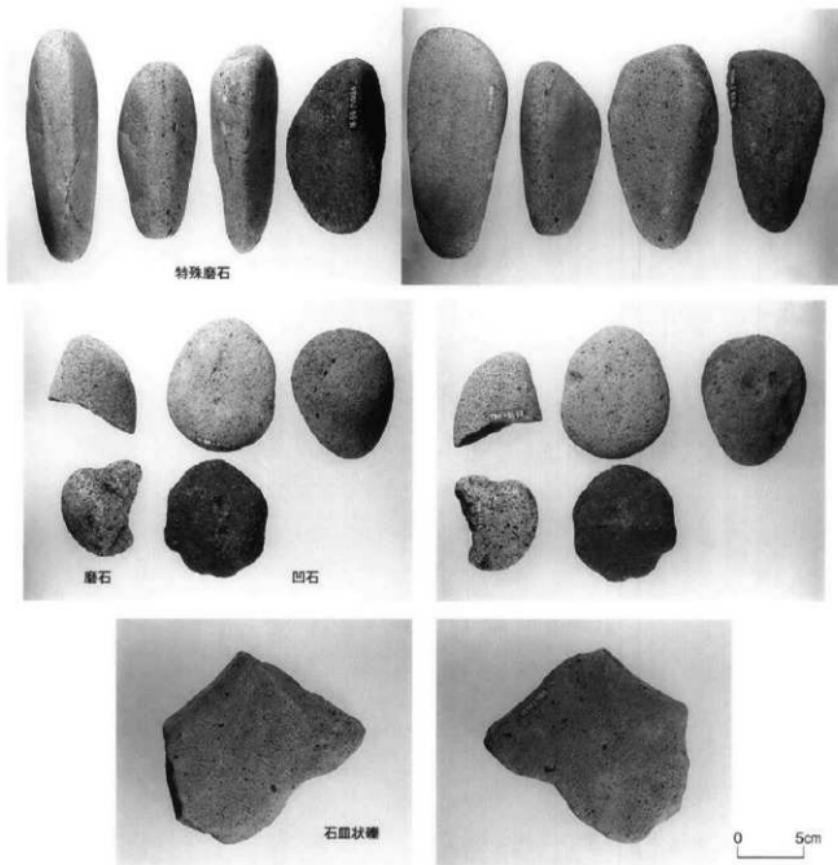


0 5cm



0 5cm

東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文時代の石器、江戸時代末の染付、近世陶磁器



東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文時代の石器



東裏遺跡東裏团地地点出土の近世陶磁器

上 3 点 江戸時代末の染付  
中・下 明治時代初の染付



報告書抄録

書名	東裏遺跡 東裏団地地点・町道柴山線地点発掘調査報告書
副書名	縄文早期・沈線文系土器の遺跡
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財
シリーズ番号	
編著者名	中村由克
編集機関	信濃町教育委員会
所在地	〒389-1305 長野県上水内郡信濃町柏原428-2 TEL:026-255-5923
発行年月日	西暦 2004年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
東裏 東裏団地地点	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字東裏	205834	70	36度 48分 02秒	138度 12分 47秒	19930920~ 19931105	700	宅地造成 町道建設
東裏 町道柴山線地点	タ	タ	タ	タ	タ	19990423~ 19990608	450	町道建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東裏 東裏団地地点	散布地	縄文時代 早期	なし	総出土数 縄文土器 石器 江戸末染付 明治初期染付	510点 391点 43点 3点 6点 縄文時代早期中葉の土器がまと まって出土し、北信地方における 沈線文系土器の様相が明らかと なった。
東裏 町道柴山線地点	タ	縄文時代 早期・後期 弥生時代 古代	なし	総出土数 縄文土器 石器 弥生時代 古代土師器 近世ふいご羽口 江戸後期染付	1,072点 864点 70点 5点 8点 3点 1点 縄文時代早期中葉の沈線文系土器 がまとまって出土した。

信濃町の埋蔵文化財

---

東裏遺跡東裏団地地点・  
町道柴山線地点発掘報告書

-縄文早期・沈線文系土器の遺跡-

編集発行 信濃町教育委員会  
長野県上水内郡信濃町柏原428-2

発行日 2004年3月31日

印 刷 信毎書籍印刷株式会社

---

〔この報告書についての連絡先〕

野尻湖ナウマンゾウ博物館

〒389-1303 長野県上水内郡信濃町野尻287-5

TEL 026-258-2090

FAX 026-258-3551

Archaeological Reports of Shinano-machi

# Higashiura Site

Excavation of a Initial Jomon Site

2004

Shinano-machi Board of Education,  
Kamiminochi-gun, Nagano, 389-1305 Japan.